

より良き学校を目指して

学校改善のための効果的な

学校評価システムの構築

札幌市立屯田中央中学校

I はじめに

より良き学校を
目指して

1 本校における学校評価のねらい

学校評価のねらいを「より良き学校を目指して～学校改善のための学校評価」とし、教職員、生徒・保護者、地域ごとに、より良い学校の目標を設定した。

1. 〈教職員〉 働きがいのある学校、誇りをもてる学校
2. 〈生徒・保護者〉 通いたい学校、通わせたい学校
3. 〈地域〉 信頼できる学校、開かれた学校

この目標を達成するための手段として学校評価を位置付け、実現状況の把握と改善のための方策を設定し実行していくものとする。

2 昨年度の学校評価の結果をもとにした改善点

- ・学校教育目標、学校経営重点の周知が不十分
→保護者集会、生徒各種集会で説明する機会を増やし、各種便り等にもその都度記載し、周知を図る。
- ・教師の資質に関する評価が低い
→学校教育目標、学校経営重点に付随する「目指す教師像」の設定と校内研修の強化・充実を図る。
- ・学習全般に関する評価が低い
→「授業評価アンケート」を導入し、「分かる楽しい」授業を目指した授業改善の取組を実施するとともに、家庭学習習慣の定着に向けた取組の強化を図る。

II 本校の学校評価システム

自己評価
=学校改善のため
の根幹としての
手段

1 自己評価の実効性を高め、充実を図る組織体制

(1) 推進主体としての教務部

教務部が主体となり、学校評価に関する業務を行っている。年度初めの年間計画立案から方法検討、アンケート項目検討、アンケート実施・結果分析、改善原案の作成、公表方法検討等を行い、職員会議に提案し全教職員の共通理解を図り推進する。

(2) 実施主体としての教育課程検討委員会

各校務部および各学年代表から構成する教育課程検討委員会において、教務部作成のアンケート結果の分析（check）、それを受けて改善原案を綿密に検討し、各部・各学年で改善策を立案する。年度の中間と年度末職員会議において自己評価書を提案し、改善策を実行（action）する。

学校関係者評価
＝学校改善を支援
していただくた
めの手段

2 自己評価の客観性・妥当性を高め、学校改善を支援するための学校関係者評価
本校では、学校関係者評価委員5名を3年任期で委嘱している。学校関係者評価委員会を年間3回実施し、学校教育目標と経営重点、中間自己評価、年度末自己評価について検討していただき、検討結果から中間と年度末に学校関係者評価書を作成し、教職員、保護者、地域に広く公表している。学校は評価結果を真摯に受け止め、学校改善の手だてを講じて実践していくというシステムを設定している。

Ⅲ 学校評価の一年間の流れ（平成21年度）

月	自 己 評 価			学校関係者評価
	学校（教職員）	生 徒	保護者	学校関係者評価委員会
4	・学校経営方針の決定、取組の重点決定 ・学校経営方針の説明（各種保護者集会） ・授業公開 ・生徒総会、認証式公開			入学式参加 授業公開参加視察
5	・校務運営要綱作成			第1回学校関係者評価委員会
6	・旅行的行事 ・スポーツ大会公開 ・部活動激励会公開			学校視察
7	・学期末教育懇談会 ・前期学校評価教職員アンケート	授業評価アンケート 前期学校評価生徒アンケート	前期学校評価保護者アンケート	
8				
9	・華林祭公開 ・授業公開 ・前期授業評価アンケート結果に対する教科担任コメント公表 ・中間反省実施 ・中間自己評価書作成			華林祭参加視察 授業公開参加視察
10	・前期アンケート結果公表 ・中間自己評価書作成			第2回学校関係者評価委員会 →中間学校関係者評価書作成
11	・合唱コンクール公開 ・中間自己評価書、中間学校関係者評価書公表			合唱コンクール参加視察
12	・学期末教育懇談会 ・年度末学校評価教職員アンケート	授業評価アンケート 年度末学校評価生徒アンケート	年度末学校評価保護者アンケート	学校視察
1				
2	・後期アンケート結果公表 ・後期授業評価アンケート結果に対する教科担任コメント公表 ・年度末反省実施 ・年度末自己評価書作成			
3	・授業公開 ・送別集会公開 ・年度末自己評価書、年度末学校関係者評価書公表 ・次年度重点課題検討、決定			送別集会参加視察 卒業式参加 第3回学校関係者評価委員会 →年度末学校関係者評価書作成

IV 学校評価の方法

自己評価資料としてのアンケート

1 自己評価

(1) 学校運営全般に関する自己評価資料としての学校評価アンケート

中間・年度末の年間2回、3者（教職員・保護者・生徒）を対象にアンケートを実施する。アンケートは4段階評価と自由記述を導入する。

① 評価項目

学校全体の評価項目と担当部門の評価項目に分けて設定する。

ア、学校教育目標 イ、年度経営重点 ウ、各校務部 エ、各学年
評価項目は対象3者（教職員・保護者・生徒）がリンクする項目を設定する。

② 結果の集計と分析

結果の集計と分析は教務部が担当し、教育課程検討委員会で検討し現状を把握する。

③ 自己評価書の作成と改善策の設定・実行

アンケート結果の分析後、教育課程検討委員会で自己評価書を作成し改善の方策原案を立案する。これを各校務部で検討し、具体的な改善策を作成し職員会議で全教職員の共通理解を図り、実行する。

(2) 教育活動の基盤となる学習指導の自己評価資料としての授業評価アンケート

中間・年度末の年間2回、生徒を対象に授業評価アンケートを実施する。

① 評価項目

必修9教科毎に「授業は楽しい」「授業は分かる（できる）」の2項目について4段階で評価し、同時に9教科毎の自由記述（感想・要望・その他）を導入している。

② 結果の集計と分析

結果の集計と分析は教務部が担当し、各教科会に提示する。各教科会は現状を把握する。

③ 改善策の設定・実行

- ・各教科会において、集計結果をもとに改善策を立案し実行する。生徒に向けて「授業評価を受けての教科担任コメント」を発行する。
- ・全校で取り組むべき課題については、教務部および研修部が担当し、検討した改善策を提示し、全校で実行する。

教育活動の基盤としての授業評価

2 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員会の構成と役割

現PTA会長、地域の代表としての学校評議員2名、校区青少年健全育成会代表者1名、有識者としての元学校長1名の合計5名で学校関係者評価委員会を構成している。中間と年度末において「自己評価結果の内容が適切であるか」「自己評価結果を踏まえた改善策が適切であるか」について評価していただいている。また、日常の学校の様子を把握していただくために、授業公開、学校祭、合唱コンクール等の学校行事への来校をお願いしている。

(2) 学校関係者評価を生かす取組

自己評価の客観性と妥当性を高めるための手段として、中間・年度末の年間2回の学校関係者評価を実施している。学校としてはこれを真摯に受け止め、実践している教育活動の「長所」と「短所」を明らかにするとともに、ご指摘いただいた事項について具体的な改善策を策定・実行し、学校改善に役立っている。

【検証と助言＝支援】 コミュニケーション ツールとしての学校 関係者評価

V 評価結果の公表

「地域・保護者から見える＝開かれた学校」のために

1 公表の方法

本校では、評価結果の公表を次の方法で行っている。

- ・学校だより
- ・学校ホームページ
- ・各種保護者集会

2 公表の内容

中間と年度末の年間2回、次の内容を公表している。

- ・保護者アンケート結果
- ・生徒アンケート結果
- ・自己評価書
- ・学校関係者評価書
- ・生徒授業アンケート結果（全教科合計）

3 公表の効果

- ・教育活動に対する地域、保護者からの理解が得られ、協力的な意見が寄せられるようになってきた。また、地域、保護者は自らの意見や要望が学校改善につながっていることを理解するようになってきた。
- ・基本的な生活習慣の定着や家庭学習をはじめとする学習に関する課題を保護者と学校が共有することにより、連携と協力が不可欠であることについて周知できた。
- ・学校関係者評価書を公表することにより、自己評価の客観性・妥当性が高まり、地域、保護者からの理解が得られるようになってきた。
- ・現状と改善策を公表することにより、教職員の意識の向上が見られ、学校改善に向けた取組に対して真摯に向き合うようになってきた。

VI 成果と課題

1 成果

- ・学校運営上の成果と課題が明確になり、より良き学校を目指した学校改善に向けて教職員が一丸となって取り組むようになった。
- ・教育活動の基盤としての授業評価を通して、授業改善に向けた研修の取組が活発に行われるようになった。
- ・公表により、学校と地域、保護者が教育活動の成果と課題を共有し、協力と連携の強化が図られるようになった。
- ・学校関係者評価の導入により自己評価の信頼度が高まった。

2 課題

- ・「学校改善のための学校評価」との位置付けについては、確実に有効に機能しているが、教務部担当者と教育課程検討委員会の労力が増大している。本来は、学校評価によって導き出される改善策の具体的な実行に最大の労力を注ぐべきであり、今後は省力化を図ったり、担当者を複数にするなど、より効率の良い学校評価システムの構築を目指す必要がある。
- ・学校関係者評価委員に自己評価を評価していただくことにより、教育活動を支援するための学校関係者評価は確実に進められ、有効に機能してきている。しかし、学校関係者評価委員には、日常の学校の様子（特に生徒の様子）を把握していただく機会が少ないことから、数多く学校へ足を運んでいただくための工夫と各委員の担当評価項目を設定する等の工夫が必要である。

【参考文献】

- ・「義務教育諸学校における学校評価ガイドライン」文部科学省
- ・「札幌市の学校評価」「学校評価の充実のための実践研究」札幌市教育委員会

学校だより	<h1>校 友</h1>	平成21年10月10日発行
平成21年度 第9号		札幌市立屯田中央中学校

ご協力ありがとうございました 中間学校評価アンケート結果の公表について

7月に生徒および保護者の皆様にお願しました中間学校評価アンケートの結果がまとまりましたのでお知らせいたします。貴重なご意見やご指摘をいただきまして、たいへん感謝しております。

多くの項目では高い評価をいただきましたが、一部では厳しい評価もいただき、本校の学校運営に対し大きな期待が寄せられていることを痛感いたしました。学校としては、保護者の皆様と全校生徒からの評価を謙虚に受け止め、今後多方面からの改善を心がけ、より良い学校作りに向けて継続的に努力してまいります。近日中には「学校評価書」を公開いたしますので、今回のものと一緒にご覧ください。また、生徒および保護者の皆様からの自由記述(より良い学校にするための助言、提案、意見)につきましても、今後の改善に向けての参考とさせていただきます。

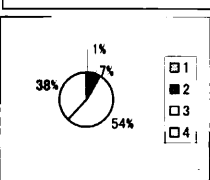
12月には、年度末評価に向けてのアンケートを実施する予定ですので、より良い学校作りのために今後ともご協力の程よろしくお願いいたします。

○中間学校評価アンケート結果と分析

□1 まったくそう思わない □2 あまりそう思わない □3 だいたいそう思う □4 そう思う

【保護者(全校)】

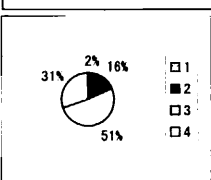
お子さんは授業内容を忘れず 授業に真面目に取り組んでいる



生徒の82%が「4」「3」の肯定的な評価をしているが、約2割が授業に真面目に取り組んでいない現状がある。生徒の自己評価よりも保護者の評価が高い。

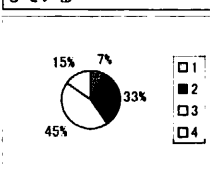
【生徒(全校)】

授業内容を忘れず 授業に真面目に取り組んでいる



【保護者(全校)】

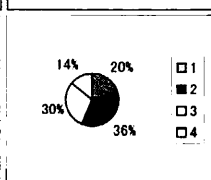
お子さんは毎日家庭学習をしている



56%の生徒が「1」「2」の否定的な評価をしており、半数以上の生徒に家庭学習の習慣が定着していない現状がある。学校と保護者が共有しなければならない課題である。

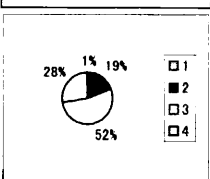
【生徒(全校)】

毎日家庭学習をしている



【保護者(全校)】

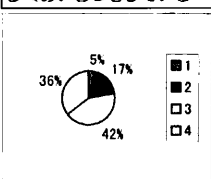
お子さんは誰に会っても いつでも明るくあいさつをしている



保護者、生徒ともに3/4以上が、「4」「3」の肯定的な評価をしている。※(参考)3学年生徒の「4」評価が他学年生徒よりも突出して高い。

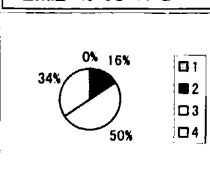
【生徒(全校)】

誰に会っても いつでも明るくあいさつをしている



【保護者(全校)】

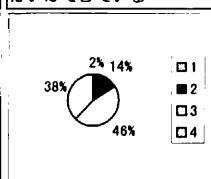
お子さんは正しい服装、正しい言葉遣いができている



保護者、生徒ともに84%が、「4」「3」の肯定的な評価をしている。

【生徒(全校)】

正しい服装、正しい言葉遣いができている

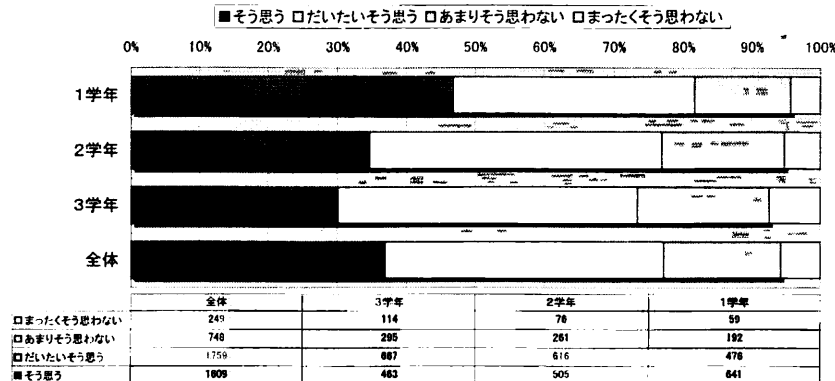


○中間授業評価アンケート結果

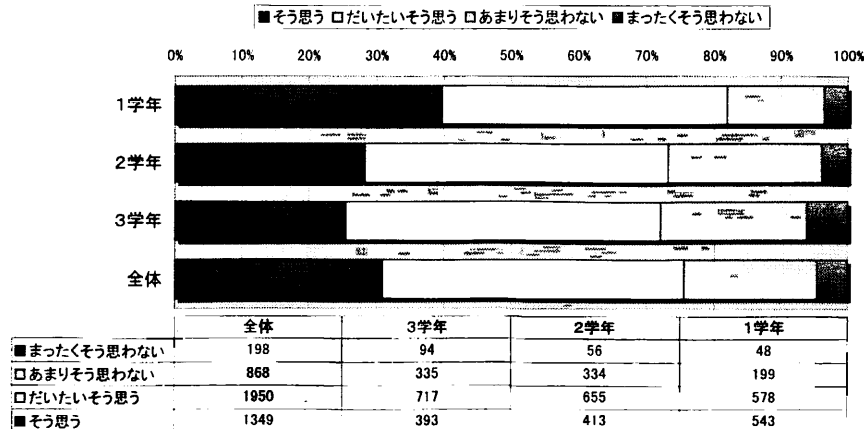
1学期の終わりに全校生徒対象に実施した授業評価アンケートの結果をお知らせします。アンケート項目は、各教科ごとに「授業は楽しい」「授業はよくわかる(できる)」の2項目と自由記述(感想)でした。下に示されている数値は、全教科を合計したものです。

全教師で結果を分析し、よりよい授業を行うための貴重な資料として活用し、数値の向上に努めたいと考えています。なお、先日「授業評価アンケートを受けての教科担任コメント」を配布しましたが、これについてもあわせてご覧になっていただきたいと思います。

H21前期授業評価『授業は楽しい』



H21前期授業評価『授業はよくわかる(できる)』



平成21年度 年度末学校関係者評価書

札幌市立屯田中央中学校

1. 本年度の教育目標

明るい豊かな社会を創造し 人類の平和に貢献することを目指して
 ・礼儀を重んじ ひろく人と自然を愛する 豊かな心情を育む(徳育)
 ・生き生きとした 豊かな 学力をみがく(知育)
 ・強靱で 健全な たくましい心身を育てる(体育)

2. 学校経営の基本方針

○公教育への自覚と責任
 ○豊かに学び、高め合う充実した学校
 ○磨き合い、高め合う充実した学校
 ○説明責任と結果責任を明確にする開かれた学校

3. 本年度の経営重点

《目指す生徒像》
 ・目標を明確に持ち、授業を大切にしている生徒
 ・心のこもった挨拶のできる生徒
 ・自分の可能性に挑戦する生徒

4. 年度末自己評価結果と学校関係者評価結果(A…「十分である」、B…「おおむね十分である」、C…「不十分である」)

分野	項目	教師 評価	保護者 評価	改善の方策	学校関係者評価		
					自己評価の適切さ	改善策の適切さ	意見
学校経営に関して 教師の資質 目指す生徒像	十分な授業準備のもと学力の向上に努め、授業で勝負している				適切・不適切	適切・不適切	記述事項
	研究と修養に励み、教科指導の力量向上に努めている				適切・不適切		
	適切な言葉遣いを心がけている				適切・不適切		
	開始・終了時刻等、時間を守りけじめのある行動をとっている				適切・不適切		
	誰に対しても、いつでも明るく挨拶している				適切・不適切		
	生徒は誰に会っても、いつでも明るく挨拶をしている				適切・不適切		
	生徒は正しい服装、正しい言葉遣いをしている				適切・不適切		
	生徒は自分を大切に、他の人を大切にしている				適切・不適切		
校務分掌に関して	生徒と保護者に信頼される評価評定を目指し、明確で正当な評価に取り組んでいる				適切・不適切	適切・不適切	記述事項
	「楽しく」「よくわかる」授業を行うための研修に努めている				適切・不適切		
	基本的な生活習慣、社会性を身に付けさせる指導を行っている				適切・不適切		
	生徒のいる場所には、教師がいる				適切・不適切		
	生徒一人ひとりの理解に努め、一人ひとりの状況に対応している				適切・不適切		
	生徒は学校行事や生徒会活動、部活動に全力で取り組んでいる				適切・不適切		
	学校の施設は使いやすく、清潔で過ごしやすい環境が整っている				適切・不適切		
	職員室等の身の回りの整理整頓に努め、清掃活動を生徒とともにしている				適切・不適切		
学校からの情報は適切に発信している				適切・不適切			

5. 自己評価における特記事項

○A、B、Cはアンケート結果の「そう思う」「だいたいそう思う」の合計%から算出しました。

A…75%以上、B…50%以上75%未満、C…50%未満